

日本木材学会バイオマス変換研究会 夏季講演会 「バイオマス変換の研究最前線」実施報告と今後の予定

バイオマス変換研究会はこれまで、木材学会年次大会最終日に春季講演会を、リグニン討論会翌日に秋季講演会を、木材学会の他の研究会やリグニン討論会若手の会などと一緒に主催してきました。今年度は、新しい試みとして、セルロース学会翌日の平成27年7月11日（土）に、セルロース学会、高分子学会エコマテリアル研究会、繊維学会、応用糖質学会のご協力の下、北海道大学農学部の講義室をお借りして、夏季講演会「バイオマス変換の研究最前線」を開催いたしました。

これまでの石油依存の社会から脱却し、持続可能な物質生産システムを構築するには、再生可能な資源である植物バイオマスから生物や化学の力により有用物質を創製することが必要不可欠です。本講演会では、これまで各々の分野で最先端の研究を行ってこられた下記の5名の先生方に、研究分野の垣根を越えて、新たな視点での研究開発や交流が生まれることにつながる研究コンセプトや最新のデータをご紹介いただきました。

- 京都府立大学・宮藤久士：イオン液体を用いたバイオマスの化学変換
- 京都大学・上高原 浩：木質バイオマスの限定的分解-分離-再結合反応の開発とその応用
- 北海道大学・松本 謙一郎：糖質バイオマスを利用した非天然ポリエステルの微生物合成
- 北海道大学・田島 健次：ナノフィブリル化バクテリアセルロースの合成と応用
- 北見工業大学・鈴木 勉：セルロース系物質の鉄触媒炭化による導電性炭素の製造

学会翌日にもかかわらず、40名以上の多くの方々の参加があり、活発な討論が行われました。

今年度は下記の日程でこれから3回の講演会を予定しています。研究会メンバーはもとより、学会会員の多くの皆様の自由な参加をお待ちしています。

平成27年11月6日（木）～7日（金）、リグニン討論会後、秋季講演会（いこいの郷 常総）

平成27年11月13日（金）バイオマス合同交流会（東京大学 弥生講堂アネックス）

平成28年3月29日（火）、年次大会最終日、春季講演会（名古屋大学）